
プロジェクト **収益認識に関する包括的な会計基準の開発**
項目 **第 356 回企業会計基準委員会で聞かれた意見**

本資料の目的

1. 本資料は、第 356 回企業会計基準委員会（2017 年 3 月 13 日開催）において審議した項目について、聞かれた主な意見をまとめたものである。

重要性に関する事項の検討

2. 変動対価における収益金額の修正時点の検討については、変動対価に関する不確実性が解消されるまでの期間が 3 か月程度であっても、変動対価の金額に重要性が乏しい場合が多いとはいえないのではないか。

収益認識の単位及び取引価格の配分に関する事項の検討

3. 提案されている 2 つ目の要件として、「顧客に移転する財又はサービスの内容及び金額が適切に定められていること」とあるが、「適切に」という用語の意図が、金額が経済合理的に定められているということなのか、または、事後的に金額が操作できないように定められているということなのかについて、明確にするのがよいのではないか。

会計基準の構成の検討

4. IFRS 第 15 号における 5 ステップを基本となる原則として明示する場合、すべての契約について 5 ステップにおける手続を実施することが要求されると関係者が考える可能性があり、内部統制上の負荷が増加する懸念があるのではないか。

以 上